

# 男性のための男女共同参画に関するアンケート

## 調査結果の概要

### 【Ⅰ 調査の概要】

#### 1 調査の目的

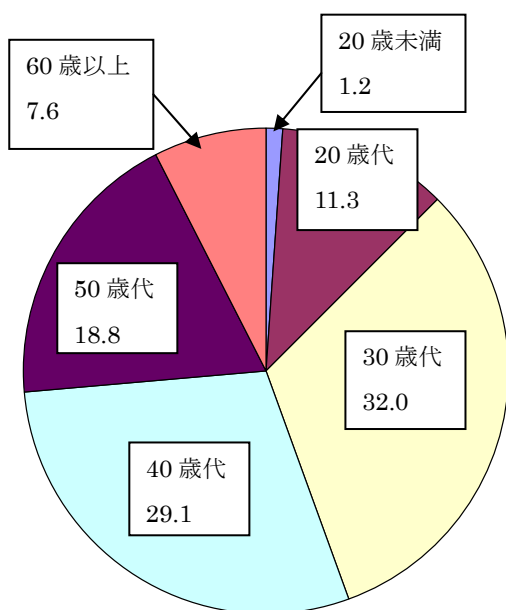
「男性にとっての男女共同参画」の推進の観点から、企業などで働く男性の現状、考えを調査し、今後の男女共同参画社会の実現に向けた活動を行っていく上での基礎資料とするため。

#### 2 調査の設計

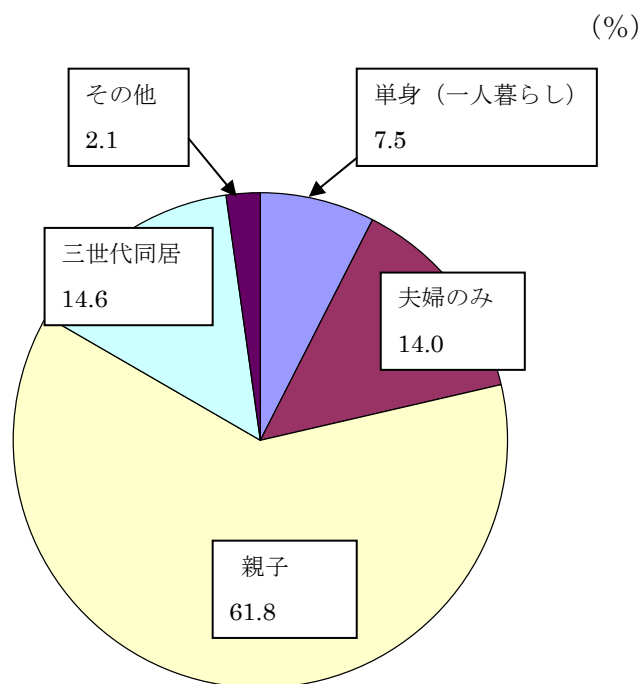
- (1) 調査地域：愛知県
- (2) 調査対象：企業などで働く男性
- (3) 調査期間：平成23年11月1日～11月30日
- (4) 回収数：672

### 【Ⅱ 回答者の属性】

#### 1 年代



#### 2 世帯



### 【Ⅲ 調査結果の概要】

#### 1 「男女共同参画」の認知度について

「男女共同参画」という言葉については、「知っていた。」と回答したのは66.5%であった。

一方、国が掲げている『2020年30%』（2020年までに、社会のあらゆる分野において、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%になるようにする）の目標について、「知っていた。」と回答したのは15.3%であった。

#### 2 会社（職場）などでの女性の活躍について

「女性の労働力や発想を活かして社会や経済を活性化させる必要がある」と言われていること

について、「そのとおりだと思う。」と回答したのは78.7%であった。

「会社（職場）では、方針や事業計画を検討する会議等に、男性も女性もメンバーに入っているか」について、「ほとんどの場合に男性も女性も入っている。」との回答が51.9%であったが、一方で、「ほとんどの場合は男性だけである。」との回答も44.5%であった。

### 3 育児休業、介護休業について

「男性が育児休業をとること」について、「本人が希望するならとらせるべきである。」が56.8%、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」が26.4%であった。

「どうすれば男性が育児休業をとれるようになるか」については、「上司や同僚が理解を示し、取りやすい雰囲気をつくる。」が32.0%であり、「代替人員を配置するなど、仕事に支障のないようにする。」が19.0%、育児休業を取っても不利益な処遇をしない。」が14.9%、「育児休業中も生活できるような給与を保障する。」が14.6%と続いた。

なお、「育児休業より短時間勤務ができる方がいいという意見もあるがどう思うか」について、「状況によるので、どちらともいえない。」が63.6%、「完全に休める育児休業の方がいい。」が17.4%、「取りやすいので、短時間勤務の方がいい。」が16.5%であった。

また、「男性が介護休業を取ること」については、「本人が希望するならとらせるべきである。」が65.1%、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」が20.3%であった。

「どうすれば男性が介護休業をとれるようになるか」については、「上司や同僚が理解を示し、取りやすい雰囲気をつくる。」が31.1%であり、「代替人員を配置するなど、仕事に支障のないようにする。」が18.7%、「介護休業中も生活できるような給与を保障する。」が17.0%、「介護休業を取っても不利益な処遇をしない。」が15.1%と続いた。

### 4 男性の家事への参画について

「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方（固定的性別役割分担意識）について、「男性も女性も両方が仕事も家事もすべきである。」が32.3%、「そう思うが、家事・育児に支障のない範囲であれば、女性も働いて良い。」が30.1%、「男性が家事をして、女性が働いても良い。」が17.1%であった。

「家庭での家事へのかかわり」について、「たまに家事を手伝っている。」が42.0%、「家事はほとんどしない。」が15.5%、「家族が家事をできないときだけ自分が家事をしている。」が13.1%であった。一方で、「日常的に家族と家事を分担している。」は23.1%、「自分が家事のほとんどをしている。」は6.3%であった。

なお、家事をしている場合、その主な理由としては、「家事を分担するのは家族として当たり前のことだから。」が56.8%、「ほかにする人がいないから。」が20.9%であった。

反対に、家事をしていない場合、その主な理由としては「家事をしてくれる人がいるから。」が52.5%、「仕事で疲れているので、家事までする気にならないから。」が20.8%であった。

## 5 男女共同参画が進むことについて

「男女共同参画が進むことにより、特に好ましいと感じること」について、「男性も女性も、生き方の選択肢が増えること。」が 29.7%であり、「男女がともに家庭も仕事も楽しめる社会になること。」が 24.8%、「男女がともに仕事も家事もできれば、失業や病気などに伴う生活の不安が減ること。」が 15.9%、「少子高齢化や人口減少に伴う労働力不足を補うことができること。」が 13.3%と続いた。

反対に、「男女共同参画が進むことにより、特に好ましくないと感じること」については、「働く女性が増えることで、母親が子どもに接する時間が減ること。」が 39.8%であり、「女性が家事・育児に手を抜くようになる。」が 13.6%、「家庭での男性の家事や育児の負担が増えること。」が 11.6%と続いた。

また、「男女共同参画社会の実現に何が特に有効だと思うか」について、「保育所を増やすなど、男女ともに働けるようにすること。」が 33.6%であり、「長時間労働をなくすこと。」が 19.4%、「男性の意識を変えること。」が 16.7%、「子どもの頃から、性別に関わらず、個性を伸ばす教育をすること。」が 13.1%、「女性の甘えをなくすこと。」が 12.5%と続いた。

最後に、「あなたは男女共同参画がもっと進むといいと思いますか」について、「そう思う。」と回答したのは 90.7%であった。

なお、理由について、以下の意見を始め多くの意見があった。

### 【男女共同参画がもっと進むといいと思う。】

- ・ 性別に関係なく、多くの人が多様な生き方を選択できることは、素晴らしいと思うから。(20代、世帯：夫婦のみ)
- ・ 男女平等の認識が遅れているのはむしろ女性の方だと思います。女性の側の多くは、「仕事も家事育児も自分の好きなように選びたい」と思っている一方で、男性に対しては旧来のイメージ(男らしく外で働いて金を稼ぐこと)を押しつけています。実際に会社よりも家庭の中でその能力を発揮できる男性も多いと思うので、男性の活躍の場を広げるためにも、もっと進めるべきだと思う。(30代、世帯：親子)
- ・ 男性の家庭、育児、介護に対する考え方の変化や女性ならではの発想が、社会の変化に対応していくのではないかと思ったから。(40代、世帯：親子)
- ・ 女性、男性双方の甘えが改善される。(50代、世帯：親子)
- ・ 男女共同参画の意識はまだまだ育っていない。お互いに相手を尊重する気持ちが大切。男女に限らず人として。(60歳以上、世帯：夫婦のみ)

### 【男女共同参画がもっと進むといいとは思わない。】

- ・ そもそも周りの女性で結婚後も正社員で働きたい人は少ないように感じる。(20代、世帯：親子)
- ・ 概念としての男女共同参画は広まってもいいし、意識を浸透させることは必要かもしれないが、目標に数値を設定するような画一的規定の実現はばかっているので、やり方を考えるべき。(30代、世帯：夫婦のみ)
- ・ 家庭、子どもとの時間の方が大事だと考える。子育て世代の女性だと、終日労働は難しいし、するべきではなく、子どもと一緒にいる時間の方が大切。(40代、世帯：親子)
- ・ 人間は男性と女性の本質が違うから、無理が生じると思う。(50代、世帯：親子)

- ・ 女性の意欲が腰掛け程度としている方がいる。この意識改革を直さない限り、男女共同参画はできない。(60歳以上、世帯：夫婦のみ)

## 6 年代・世帯による違いについて

「男性が育児休業を取ること」について、全体では「本人が希望するならとらせるべきである。」が56.8%、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」が26.4%であったが、これを年代別にみると「本人が希望するならとらせるべきである。」は30歳未満61.9%、30歳代60.0%、40歳代55.2%、50歳代54.0%、60歳以上47.1%と年代順に低くなり、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」は30歳未満15.5%、30歳代26.0%、40歳代27.3%、50歳代29.4%、60歳以上35.3%と年代順に高くなった。

また、世帯別にみると「本人が希望するならとらせるべきである。」は単身58.0%、夫婦のみ59.6%、親子55.2%、三世帯同居59.8%であり、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」は単身28.0%、夫婦のみ26.6%、親子27.0%、三世帯同居21.6%であった。

「介護休業を取ること」については、全体では「本人が希望するならとらせるべきである。」が65.1%、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」が20.3%であったが、これを年代別にみると「本人が希望するならとらせるべきである。」は30歳未満61.9%、30歳代70.2%、40歳代66.2%、50歳代60.8%、60歳以上56.9%と、30歳代、40歳代が高くなり、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」は30歳未満15.5%、30歳代17.7%、40歳代21.5%、50歳代24.0%、60歳以上25.5%と年代順に高くなった。

また、世帯別にみると、「本人が希望するならとらせるべきである。」は単身58.0%、夫婦のみ68.1%、親子65.7%、三世帯同居65.3%であり、「仕事に支障がないようにした上でなら取ってもよい。」は単身22.0%、夫婦のみ19.1%、親子20.5%、三世帯同居17.3%であった。

「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方(固定的性別役割分担意識)について、全体では「男性も女性も両方が仕事も家事もすべきである。(①)」が32.3%、「そう思うが、家事・育児に支障のない範囲であれば、女性も働いて良い。(②)」が30.1%と、2つの回答が高くなった。

これを年代別にみると、【①、②】の順に、30歳未満【25.0%、29.8%】、30歳代【36.7%、27.9%】、40歳代【31.3%、28.2%】、50歳代【33.3%、31.0%】、60歳以上【28.0%、46.0%】と、30歳代、40歳代、50歳代では①の方が高く、30歳未満と60歳以上では②の方が高くなった。

また、世帯別にみると、【①、②】の順に、単身【26.0%、28.0%】、夫婦のみ【37.2%、28.7%】、親子【31.6%、31.8%】、三世帯同居【32.0%、26.8%】であった。

「あなたは男女共同参画がもっと進むといいと思いますか」について「そう思う。」が、年代別では30歳未満93.7%、30歳代90.3%、40歳代89.7%、50歳代91.1%、60歳以上89.4%であり、世帯別では単身91.5%、夫婦のみ89.0%、親子90.2%、三世帯同居93.7%であった。